

## 高森町地域クラブ活動の展開に向けた検討委員会 会議記録

日時 令和7年7月7日(月) 19:00-21:00

会場 福祉センター 大ホール

(1)出席者自己紹介

(2)委員長選出 ⇒ 委員長：高野教育長 副委員長：熊谷教育委員 に決定

(3)議事

### 1.部活動地域展開（地域移行）について（P1～P22）

Q：これまでに他自治体の地域移行の会議にも参加してきており、今回の資料も見て一番疑問に思っているのは、誰が中心なのか。大人の都合で動いており、子どもの意見などが反映されていないように見受けられる。学校の先生たちの勤務時間が大変なのも大人の都合ではないか。子どもが何を望んでいるのかが置き去りにされている。子どもの願いがどれだけ反映されているかが大事ではないか。

少子化により現在クラブ間の子どもの奪い合いが起きている。これまでは小学校4年生くらいからクラブ加入することが多かったが、クラブ員確保のため、小学校1、2年生から加入することも多くなってきている。そうすると、その子どもたちは加入クラブの種目しかできなくなってしまっている。中学校だけではなく、小学校の時期も含めて考える必要があるが、この資料からはその内容が見て取れない。子どもたちをどのように育てていきたいかを具体的に示さないとこの課題は前に進まないのではないか。

現状では、広域的に選手を集めて全国大会出場を目指すクラブチーム運営の傾向が顕著であると感じる。その実態を町としてどのように捉えるかしっかりと考えないと、子どもの成長にとってはマイナスになってしまう恐れもあるのではないか。広域的に選手を集めて大会で好成績を得る。地域展開後のクラブチームはそれで良いのか？それが地域展開の形だとすると、置き去りにされる子どもたちがたくさん出てきてしまうのではないかと危惧する。子どもたちが身に付けた技などを大会等で発揮する場は設けられなくなってしまうのではないか。そうすると、スポーツなどを行う子どもがますます減ってってしまうのではないか。

A：この後、今の内容にも触れながら高森町の方向性をお話します。

Q：本日は中学校の部活動に関する協議の場だと思うが、中学校のグランドデザインが資料として必要ではないか。中学校での子どもへの教育方針と照らし合わせながら協議を進める必要があるのではないか。

### 2.高森町モデルの検討（P23～P37）

- ・高森町における部活動の現状について
- ・高森町モデル（案）について
- ・県内外の推進事例（飯田市・松本市・新潟県長岡市）

Q①：今後のクラブ指導者は養成が必要だと思うが、町の援助は考えられているのか。

Q②：飯田市の事例で、子どもたちのニーズに合わせた多数のクラブ設置構想があるが、飯田市の規模だからできるのであって、高森町の規模で飯田市のような多数のクラブに対して指導員を確保して設置ができるのか。

また、移行期間の子どもたちが混乱しないように進めてほしい。

Q③：指導者の都合に合わせて活動時間を設けるのではなく、子どもの時間に合わせて指導できる指導者を確保する必要があると思うが、確保できるのか。

また、指導者の中には、子どもに過剰にやらせてしまう人もいるとよく聞く。その事例も踏まえて、どのような指導者確保を想定しているのか。

A①：町では、適切な指導者確保のための研修費等に対しては公費負担で対応する必要があると考えています。

A②：多くのクラブ設置に関しては、ご指摘の通り人口規模に応じた限りがあると考えています。これに関しましては、町が確保する機会と、広域的に提供される機会との連携をどのように図るか、どのような制度設計となるのかが大きな課題だと捉えています。

A③：これまでの部活動の活動時間である「16時から18時」に指導者を確保することは一番の課題です。この課題に関しては解決していませんので、方向性を検討しながら、皆様にも今後ご意見を伺いながら進めてまいりたいと思います。

Q：今後受益者負担の議論があるかと思うが、民間スクールでは、子どもたちはどの程度の頻度で実施していて、月の会費はどれくらいか。これまでの部活動はほとんどお金が掛からなかったが、今後どの程度家庭にも負担いただくのが適正なのか。安い方がいいが、適切な指導をしてもらえれば多少の費用負担は必要だという保護者もいる。

A（民間スクール委員）：当スクールの月謝は15,000円。選手クラスの練習頻度は、基本的には週5日。エンジョイクラスでは週に1、2回でも参加可能。選手クラスでは指導内容なども説明して納得してもらって加入いただいている。今の自分より高いレベルを目指したいなら選手クラス、そうでないなら他のクラスを自身で選択してもらうようにしている。他自治体でモデルケースとしての実践の話もあったが、月謝を冒頭の金額ほどいただかないと施設としても成り立たない状況である。

### 3.令和7年度取組（実証事業）（P38～P40）

#### 4.実態調査アンケート実施について（P41）

Q：放課後の時間に子どもの活動をなぜ実施してくれないのかという声をよく聞く。スポーツ教室なども、一度家に帰って夕飯もほどほどに食べてから再度出掛ける場合もある。これは、子どものことを考えた活動にはなっていないのではないか。

地区行事などに出ずに部活動などに出る子どもが多く、中学生の子どもたちがごっそりいなくなってしまう現状もある。

また、学校の部活動では監視の目があり過剰な活動にはなりにくいが、クラブだとやりすぎも生じている。故障した選手への指導も不適切なものもあると感じている。

平日 2 時間は完全に超えているが、現状それで許されており、それを止められる人はいない。今後地域クラブとしてどのようにコントロールするか、難しい課題だと感じる。子どもの健全育成、学びのために、誰がどのように管理していくのか。根本として、高森町ではどのような子どもを育てていきたいのか、その視点での説明が希薄であると感じた。

Q：高森中学校のグランドデザインを次回までに用意してほしい。

Q：今後地域クラブの指導者としては、やはり指導者資格を有していることは大事なことだと思うが、指導者資格だけではなく、コンプライアンス面が最重要だと思うため、指導者の採用には人柄や人格も含めて検討いただきたい。

Q：町としてどのように指導者を確保していくのかビジョンはあるか。募集をするのか、組織に委ねるのか。

A：現時点で具体的にお示しできるものではありませんが、すでにクラブ化して指導されている方に指導者を担っていただけるかお聞きするのも一案であり、人材バンク等で募集することも一案だと思います。今回の委員会で町の方向性の確認ができれば、次回以降指導者の確保方法なども含めてご提案させていただきたいと考えています。

委員長：町の方向性について異論やご指摘があればご発言をお願いします。

⇒特になし

その他について（望むこと、感想など何でも）

⇒特になし

※次回会議ではもう少し具体化した内容をお示ししたい。

(4)連絡事項

(5)閉会